

まんだら通信

第166号 (通巻198号)

平成22年 (2010) 04月 佛誕2576年

295-0103 千葉県南房総市白浜町滝口1084
真言宗智山派 天神山 紫雲寺 高橋 龍渉
郵便振替 00120-2-43163 紫雲寺
TEL0470-38-4740/FAX 0470-30-5040
<http://www.shiunji.org/>
Mail post@shiunji.org



有名な中国からの入竺僧法顕もインドから紀元409年10月、スリ

ランカに律の勉強にやってきて、このアバヤギリ寺(無畏山寺)に入り、また中国に密教(大乘)を伝えた南インドの僧金剛智不空も中国より先にこのアバヤギリ寺を訪れており、当時スリランカは仏教の世界の拠点でありました。

しかし、それは全く杞憂に終わり、カレーの御飯は美味しく、野菜果物も新鮮で、一度もおなかを壊すこともなく快適な毎日でありました。

お国はインドのすぐ近くにあつて対岸まで僅か30キロメートルほど、歴史的にも長い交流があつただけにインドの延長線上の国かと思ひ、特にインドでは過去なにかいもおなかを壊した苦い経験がありました。スリランカは、北海道の八割ぐらいの面積ですが、そこには世界遺産登録の仏教遺跡だけでも五ヶ所も有る仏教大国でありまして、移動距離も比較的少なくて多くの仏教遺跡、美術を見る事が出来ました。

紫雲寺さんの高橋ご住職は、昨年11月中旬、六名の方でスリランカを訪れ、『あそか基金』のアンギラサお坊さんや25名の小学生に会つてこられました。私は本年3月15日から8日間の短い旅ながら、大学の仏教美術の先生や仲間たちと、家内同伴でスリランカの仏教遺跡、美術を見てきました。スリランカはここ30年間に戦いが続き、2年前に一度訪れようとしたのですが出発直前に渡航禁止となり、今回が初めての訪問となりました。

私もスリランカに行ってきた
奥泉浩史

丘の下からは一八四〇段の階段を登ります。ここでマヒンダ王子は、当時の王様で鹿狩りにやってきたティッサ王と会話を交わし、王はすぐに仏教徒になつたと言われています。

スリランカ仏教史の詳細は省きますが、スリランカにはマヒンダ長老がもたらしたであろう上座部仏教の他に大乘仏教も入り、古都アヌラダプラには上座部仏教(大寺派)の象徴であるルワンワ

リサーヤ仏塔(創建紀元前二世紀、高さ約100メートル)、大乘仏教(無畏山寺派)の象徴であるアバヤギリ仏塔(創建紀元前一世紀、高さ74メートル)それに大寺派と無畏山寺派対立の産物としてのジェータナバ仏塔(祇陀林寺派、創建三世紀、高さ70メートル)の三大仏塔が建つております。

スリランカが、はつきりと上座部仏教を正統としたのは、時の王バラークマバーフ一世王でありまして一一五三年、大乘のアバヤギリ派、ジェータナバ派の二派をマハービーラ派に統合し上座部系を正統としたのであります。これにより大乘仏教の活動は制圧され、古都アヌラダプラに残る痕跡は崩れかけたアバヤギリ大塔一つになつたと言われております。

スリランカに律の勉強にやってきて、このアバヤギリ寺(無畏山寺)に入り、また中国に密教(大乘)を伝えた南インドの僧金剛智不空も中国より先にこのアバヤギリ寺を訪れており、当時スリランカは仏教の世界の拠点でありました。

スリランカ仏教は、一五〇五年からのポルトガル支配、一六五八年からのオランダ支配、そして一七九六年からのイギリス支配によって、そのキリスト教伝道布教による影響を受けて、今も尚仏教寺院の中に往時のキリスト教の鐘の塔が建つているところがあつたりします。

スリランカに律の勉強にやってきて、このアバヤギリ寺(無畏山寺)に入り、また中国に密教(大乘)を伝えた南インドの僧金剛智不空も中国より先にこのアバヤギリ寺を訪れており、当時スリランカは仏教の世界の拠点でありました。

スリランカに律の勉強にやってきて、このアバヤギリ寺(無畏山寺)に入り、また中国に密教(大乘)を伝えた南インドの僧金剛智不空も中国より先にこのアバヤギリ寺を訪れており、当時スリランカは仏教の世界の拠点でありました。

スリランカに律の勉強にやってきて、このアバヤギリ寺(無畏山寺)に入り、また中国に密教(大乘)を伝えた南インドの僧金剛智不空も中国より先にこのアバヤギリ寺を訪れており、当時スリランカは仏教の世界の拠点でありました。

スリランカに律の勉強にやってきて、このアバヤギリ寺(無畏山寺)に入り、また中国に密教(大乘)を伝えた南インドの僧金剛智不空も中国より先にこのアバヤギリ寺を訪れており、当時スリランカは仏教の世界の拠点でありました。

余滴

◆歳のせいでしょうか、月日の流れが随分速くなったように思えて仕方ありません。あつという間に今年も100日過ぎましたね。それにしても、三寒四温とはいいながら一向に春らしい陽気が来ません。今日の風は特に寒く感じます。◆4月8日は降誕会(ごうたんえ)、花祭りともいいますが、お釈迦さまがお生まれになった目出度い日ですね。今年も名倉の作工門さんから、どっさりのキンセンカや金魚草、スターチス、ストックなどもらつて花御堂の屋根を葺きました。毎年のごとですが、お陰様で惜しげなく花を飾ることができます。

◆4月10日、新しい市になって2回目の市長と議会議員さんの選挙ですね。市長さんは石井裕さんが無投票で決まりましたが、議員さんの候補者は最後のお願ひにご苦労様です。◆「私もスリランカに行ってきた」の奥泉さんは奥様が白浜出身というご縁でお近づきになりましたが、有名な会社の役員さんを退いてから、長年の夢だった仏教を本格的に勉強するため、在家のまま得度して駒沢大学に入り直したとのこと。上の文章は、原稿用紙15枚に感想をお寄せ戴いたうちの冒頭の部分です。私の独り占めでは如何にも勿体

ないので、何れ紫雲寺のホームページに載せて、写してこられた沢山の貴重な写真と一緒にご紹介したいと思います。勿論、ご本人の承諾はもらっております。ホームページに掲載したらお知らせしますので、パソコンをお持ちの皆さん、楽しみにお待ちください。◆今月の野草の写真はキラソウ【しそ科キラソウ属】別名ジゴクノカマノフタで、原色牧野植物大図鑑によると「春の彼岸の頃に咲くからいう」との説明ですが、これで納得できる人は多分いないでしょうね。2010.04.08 龍渉



につぼん人情小噺

第五十二話 ヒッチハイク

新入学のシーズンになりました。受験を無事、突破した新入生たちが晴れ晴れとした顔で校門をくぐる姿は、いつ見てもいいですねえ。

私、実はテストが子供の頃から苦手でした。江戸時代の人物で、有名な人を知っているかぎり書きなさい」という問題で、「銭形平次」と書いて先生に笑われたり、「ペリーが黒船を率いて浦賀沖にやってきた時、それを知った江戸の人々はどうしたでしょうか？」という問題に、「びっくりした」とだけ書いて、みんなに馬鹿にされた思い出があるからです。

でも、源平の戦いに関する設問に「押し寄せる源氏の迫力に、さすがの平家もビビった」と書いた生徒がいたという話を聞いて、「ああ、自分だけじゃないんだ」と安心した覚えがあります。

さて、今回のいい話、いくつかのママスコミでも紹介されたので、ご存知の方も多いでしょうが、日本人も捨てたもんじゃないという意味で、記録に残しておくためにも、あえて書かせていただきます。

埼玉県に住む中学3年生の女の子、瑠美子ちゃん。自衛隊の航空シヨールを見て、小さな時からパイロットに憧れ、石川県輪島市にある日本航空高校石川という高校を受験することにしました。

時代は変わりましたねえ。女の子がパイロットにあこがれるんですからね。そんなことはどうでもいいんです

が、それにしても、埼玉県から受験会場である学校までは、とても遠い。

そこで、お母さんと前日午後自宅を出発。上越新幹線で長岡に行き、夜行列車に乗り換えて金沢へ。そこから一番のバスで能登半島の輪島に行く予定でした。

ところが、新潟の長岡駅に着いた時、折からの大雪で金沢行きの夜行列車が運休していたのです。

「えっ！」
ふたりは驚きました。このままでは、受験できません。学校に連絡をとりました。でも、当日、受験しなければ不合格とみなすと言われました。それは、そうでしょう。

長岡の駅で瑠美子ちゃんは泣き崩れました。お母さんは、そんな娘の姿を見て、こう思いました。

「こんなことで、娘の夢を壊すわけにはいかない」と。

「瑠美子、行くよ！」

お母さんは、娘を励ましながら、駅の外に出ると、国道を歩きはじめました。とにかくヒッチハイクで金沢まで行こうと思ったのです。

大雪が降るなか、お母さんはオレンジ色の傘を振り、国道を走る車を止めようとしたが、なかなか止まってくれません。

それでも、お母さんはあきらめません。気落ちしてなかなばあきらめかけた瑠美子ちゃんを励ましつつ、二時間、深夜の国道を歩き、ようやくガソリンスタンドに一台のトラックが停まっているのを見つけました。

お母さんは運転手さんに事情を説明しました。すると、運転手さんは「金沢までなら、行つてあげるよ」と言ってくれました。そこから三百キロはあ

るでしょう。

ふたりが喜んだのは、無理もありません。

「明日、試験だろ。少し、眠ったら」

瑠美子ちゃんは、座席後方の補助ベッドに横になりました。疲れもあつて、三十分ほど眠りましたが、あとは目が冴えて眠ることができませんでした。

運転手さんは、何も話さず、ただハンドルを握つて、大型トラックを走らせました。

いつの間にか、夜が明けました。金沢市が近づいてきたのです。その時、運転手さんは言ったのです。

「よし、輪島まで行っちゃる！」

運転手さんはわかっています。この時間に金沢に着いても、まだ目的地まではかなりある。だったら、自分が行つたほうが早いと。お母さんがちよつと話した時、「中学生の子供がいる」と運転手さんが言っていたから、瑠美子ちゃんの気持ちが通じたのでしよう。

トラックは高速道路をビューンビューン飛ばし、先行車を次々と追い越していきます。

「よし、着いた」

トラックは日本航空高校石川の運動場に入つてゆきました。高校の先生たちもビックリです。なにしろ、大型トラックから受験生がおりてきたからです。

「じゃ、がんばつてー！」

運転手さんは、そう言つて、再び、アクセルを踏みました。

「せめて、お名前を」

お母さんが聞くと、「横山」と言つただけで、何事もなかったように、トラックは金沢に戻っていききました。時

計を見ると、試験の集合時間のわずか十分前でした。

その運転手さんに感謝しつつ、瑠美子ちゃんは試験を受けました。

そして、作文の試験になった時、瑠美子ちゃんは目を丸くして、驚きました。

なんと、与えられた課題が「私が感動したこと」だったからです。

瑠美子ちゃんは、昨夜から今朝にかけて起こつたこのヒッチハイクのこと、寡黙な運転手さんのことを四百字詰め原稿用紙に書きました。

それから三日後、合格通知が埼玉の自宅に届いたそうです。

まさに、運転手さんにもあげたい「人間合格」通知でした。

今月も三遊亭鳳豊師匠のエッセーをお届けします。

時々書くので大方はご存知と思いますが、月刊誌MOKUで、毎月心温まる随想を読ませていただいて、日本人ってなんて素晴らしいんだろうと元気をもらっています。

ずっと前から、独り占めじゃ勿体ないなあと思つてはいたのですが、他人様の文章を転載するのは、色々な規則があったりして実はなかなか厄介なです。

ある時決心して出版社にメールしたところ、「読んでくださる人がいるのなら、どうぞお使いくださいと鳳豊師匠からの伝言です。出版社としても同意いたします」という素晴らしいお返事をもらいました。